とことん知りたい！台湾！ 第9回

こんにちは、台熊友好会です。今回は、きたる９月23日（月曜日 / 祝日）、台熊友好会が主催となり、熊本城ホールで開催される「時の川 –台湾の歌劇と舞い–」（公益信託くまもと21ファンド助成事業）についての告知をさせて頂きたいと思います。

出会いは突然に

なにかの歌のフレーズのようですが、台湾・新竹の旧名称、竹塹を団体名に持つ「竹塹築夢歌劇團」から、当会Facebookを介し「熊本で公演したい」と相談があったのは、会発足後半年経つか経たないかの頃です。聞けば「竹塹築夢歌劇團」だけではなく「新竹交響管樂團」「雲火 INFERNO 火舞團」「新竹北埔八音團」と四団体から総勢30余名が来熊を希望。唐突な要請に戸惑いつつも、当会会長の徐がTSMCの進出先である菊陽町へ話を持ちかけ、町主催で合同公演が開催されたのは、昨年８月のことです。熊本には来たこともない団員も、相当数いたと思います。楽器や衣装、小道具等全て台湾から持参したため、熊本空港へ降り立った彼らは、かなりの大荷物だったと記憶しています。

いずれの団体も新竹近隣を中心に各々で活動していたものの、2021年「新竹交響管樂團」が、「大地の歌」と題する地元の文化的要素を取り入れた演出で、新竹エリアを巡る公演を行なったことがきっかけで、三団体が次々に参画することになったといいます。以前は屋外が主でしたが、熊本公演を機に屋内演出にも積極的に取り組んでいます。

客家の伝統文化と最新のテクノロジーアートの融合が、至るところに散りばめられた共同演出「大地の歌」。新竹の四季をテーマに吹奏・客家・電子音楽、京劇ともまた違う台湾独自のオペラと踊り、更には香りに至るまで、三感（視覚･聴覚･嗅覚）にうったえる内容となっており、まるで台湾にいるかのような感覚にとらわれる独特の世界観のこの舞台は、昨年菊陽町町民の心を捉え非常に反響がよかったそうです。

今年は新たに「清華大學AI樂團」「嵐韻箏樂團」の二団体が加わり、前日、前々日に山鹿・大津、そして菊陽町での公演をこなすというハードスケジュールの中、熊本市内で公演する機会が巡ってきました。以下、各団体の簡単な紹介です。

新竹交響管樂團

1995年「新竹市吹奏樂團」としてスタート。2002年の民営化以降も、新竹科学園区などの支持を受け精力的に活動。年間コンサート数は大小合わせ30回～40回にも及ぶ。

竹塹築夢歌劇團

2010年、台湾の伝統戯曲に対する熱い思いを持つ者同士で結成。新竹市政府からも伝統芸能団体として認められており、高齢者施設へ売上の一部を寄付するなど、社会貢献度も高い団体である。

雲火 INFERNO 火舞團

2013年に設立された、炎と光のパフォーマンス集団。雲林文化局の支援のもと、雲林初の炎芸術専門団体として雲林政府からも承認されている。

新竹北埔八音團

消えゆく客家の伝統音楽を守るべく2015年より活動を開始。婚礼、葬儀、戯曲の伴奏、寺院での祭りなどで演奏。新竹県伝統芸能審議会認定の「客家八音」継承者である。

（上）竹塹築夢歌劇團
（左）新竹交響管樂團
（右）雲火 INFERNO 火舞團

清華大學 AI 樂團

2019年、清華大学電子工学系の教授陣が開発したAIソフトと、クラシック音楽を愛する学生達からなる楽団。無論台湾初であり、アジアまた世界でも、実際の人間が人工知能の働きを独占的に実行する楽団としては、唯一とされる。

嵐韻箏樂團

新竹市に拠点をおく箏愛好家達により結成された団体。コンサートでの演奏以外にも、医療機関での演奏など慈善活動にも積極的で、台湾伝統音楽の普及にも力を注いでいる。

（上から）新竹北埔八音團、清華大學AI樂團、嵐韻箏樂團

体験型異文化交流

第一部は、台湾文化団体による合同演出「大地の歌」。第二部は、しばし菊陽吹奏楽団の演奏をお楽しみ頂いた後、台湾の伝統楽器の説明を皮切りに、客席からも数名舞台に上がって頂き、歌劇団の衣装を着用。装飾の意味や立ち居振る舞いを、また火舞団の道具を借りてパフォーマンスを、随時客席と共有しながら教わる体験型の異文化交流により、より深く台湾の伝統文化に触れて頂ければと考えております。本公演300名限定の無料公演となっておりますので、皆様お誘い合わせの上、お早めにチケットを入手頂きご観覧頂けますと幸いです。　（石橋 妙子）

公演チケットはこちらから▶

中国語一言レッスン「縁　份」

今回の台湾の芸術団体との出会いもそうですが、台湾の人も「ご縁」を大切にします。台熊友好会発足から遡ること３年前、とある食事会で一度徐と会っていたのも何かの「縁份」。またこうして商工「ひのくに」にコラムを書かせて頂き、皆様に読んで頂けるのもこれまた「縁份」。「縁份」に感謝いたしております。